



みんなで手を携え、支え合い、ぬくもりのある街にしていきたい。そんな思いを胸に、地域でグループで、生き生きと活動続ける人たちがいます。

太陽光発電を環境保全の動力に

～NPO法人ひまわりの種の会

札幌の冬の風物詩、ホワイティイルミネーション。その大通公園会場に、二年前から、市民の手づくりによる四メートルほどのツリーが一本加わりました。光源は、二酸化炭素の排出量が少ない「太陽光発電」。昼間に蓄えた自然エネルギーで、夜の街に色とりどりの光をともします。

このアイデアを具体化したのは、NPO法人『ひまわりの種の会（会員二十六人）』の皆さんです。平成十一年に発足した同会は、環境保全という大きな課題に対し、誰もが気軽に参加できる取り組みを提案しています。「子供と一緒ににおもちのソーラーカー

作りに挑戦したとき、この仕組みをイルミネーションに応用できないかと思いつきました」と話すのは、発案者でもある会長の新保さん。ゼロからのスタートに悪戦苦闘しながらも、自然エネルギーに詳しい有識者などの支援を受けて、画期的なイルミネーションツリーを実現しました。

これを契機に、より実用化へ向けた試みにも弾みがつきます。平成十三年七月には、西区の平和幼稚園と協力して、園内にソーラーパネルを設置。電力は、池の水を巡回させる動力などに利用されています。

このように精力的な活動を繰り返している中、目下、同会が力を注いでいるのが『てるてるプロジェクト』。これは、円山動物園内の動物科学館の屋上に、四十枚（面積三十八平方メートル）のソーラーパネルを設置しようというものです。これが実現すると、一日で約五キロワットの発電が可能に。年間では、約1.8トンの二酸化炭素量の削減に加え、約五万円の節電が見込まれます。「子供から大人まで幅広い年齢層が訪れる場所に設置することで、たくさんの

人に地球環境のことを考えてもらうきっかけになれば」と新保さんは切に願います。この取り組みをより多くの皆さんに知ってもらうとともに、活動の窓口も広げようと、パネル設置にかかる費用を広く市民から募ることに。現在、来年九月の設置に向けて、一万人の参加者を目標に広く呼び掛けを行っています。「みんなの力が大きな原動力となります。環境保全のためには何かをしたいと思っっている方は多いはず。ぜひご参加ください」。



写真上：「ひまわりの種の会」の皆さん(右から二人目が新保さん)。
写真右：エルプラザ(中央区北8西3)オープンイベントで、小型のイルミネーションツリーを展示し、会の活動をPR。

てるてるプロジェクトに参加したい方や、同会に興味のある方は下記へお問い合わせください。ホームページ <http://homepage2.nifty.com/pockets/himawari/himawaritop.htm>
連絡先 新保 ☎ 684-7651、Eメール rose-q@nifty.com

広告欄